



cable detect through call application stats

- ケーブル検出 (3 ページ)
- ケーブル検出ポーリングタイマー (5 ページ)
- cac_off (6 ページ)
- cache (ネイバー BE) (7 ページ)
- キャッシュの再読み込み時間 (グローバルアプリケーション設定モード) (8 ページ)
- cadence (10 ページ)
- cadence-list (12 ページ)
- ケイデンス最大オフタイム (14 ページ)
- cadence-min-on-time (15 ページ)
- cadence-variation (16 ページ)
- 通話会計テンプレート (18 ページ)
- call accounting-template voice (20 ページ)
- call accounting-template voice reload (22 ページ)
- call-agent (23 ページ)
- call application alternate (26 ページ)
- call application cache reload time (28 ページ)
- call application dump event-log (30 ページ)
- call application event-log (31 ページ)
- call application event-log dump ftp (33 ページ)
- call application event-log error-only (36 ページ)
- call application event-log max-buffer-size (38 ページ)
- call application global (40 ページ)
- call application history session event-log save-exception-only (42 ページ)
- call application history session max-records (44 ページ)
- 呼び出しアプリケーション履歴セッション保持タイマー (46 ページ)
- call application interface dump event-log (48 ページ)
- call application interface event-log (50 ページ)
- call application interface event-log dump ftp (53 ページ)
- call application interface event-log error-only (56 ページ)
- call application interface event-log max-buffer-size (58 ページ)

- [call application interface max-server-records](#) (60 ページ)
- [call application interface stats](#) (62 ページ)
- [呼び出しアプリケーションセッションの開始 \(グローバル\)](#) (64 ページ)
- [call application session start \(特権 EXEC\)](#) (67 ページ)
- [call application session stop](#) (69 ページ)
- [call application stats](#) (71 ページ)

ケーブル検出

アナログ Foreign Exchange Office (FXO) 音声ポートでケーブルポーリングを有効にするには、音声ポート設定モードで **cable-detect** コマンドを使用します。ケーブルポーリングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cable-detect
no cable-detect

構文の説明	このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。	
コマンド デフォルト	アナログ FXO 音声ポートでのケーブル ポーリングは無効になっています。	
コマンド モード	音声ポートの設定 (config-voiceport)	
コマンド履歴	リリース	変更
	15.1(1)T	このコマンドが導入されました。
	15.2(4)M	このコマンドは変更されました。 ケーブル ポーリングは、アナログの Foreign Exchange Office End Ground Start (FXOGS)、Foreign Exchange Office End Loop Start (FXOLS)、Foreign Exchange Station End Ground Start (FXSGS)、および Foreign Exchange Station End Loop Start (FXSLS) 音声ポートに拡張されました。

使用上のガイドライン デジタル信号プロセッサ (DSP) がアナログ FXSLS ポートと FXOLS ポート間にケーブルが接続されていないことを検出した場合、FXOLS 音声ポートはビジーアウト状態になります。 **no cable-detect** コマンドを設定していて、ケーブルが接続されていないためにアナログ FXOLS 音声ポートがビジーアウト状態になっている場合、Cisco ソフトウェアはケーブル接続のポーリングを停止します。アナログ FXOLS 音声ポートは、**shutdown** コマンドと **no shutdown** コマンドを使用してアナログ FXOLS 音声ポートをアイドル状態に切り替えるまで、ビジーアウト状態のままになります。 **cable-detect** コマンドは、ループスタートと Central Automatic Message Accounting (CAMA) シグナリングをサポートします。

FXOLS とは異なり、アナログ FXOGS、FXSLS、および FXSGS 音声ポートの場合、ケーブルステータスが接続から切断に、または切断から接続に変わっても、音声ポートの状態は変化しません。新しいケーブルステータスを示す syslog メッセージのみが出力されます。アナログ音声インターフェイスがケーブルポーリングをサポートしていない場合、**cable-detect** コマンドは音声ポートの下に表示されません。

アナログ FXOGS の場合、すべての FXO 音声インターフェイスカードで **cable-detect** コマンドを設定できます。

このコマンドは、次のアナログ FXOLS 音声インターフェイスカード (VIC) で設定できます。

- [VIC2-2FXS]

- VIC2-4FXS
- EM-HDA-6FXO
- EM-HDA-3FXS-4FXO
- EM-HDA-4FXO

アナログ FXSLS および FXSGS の場合、このコマンドは次の FXS 音声インターフェイス カードで設定できます。

- VIC3-2FXS/DID
- VIC3-4FXS/DID
- VIC3-2FXS-E/DID
- EM3-HDA-8FXS/DID
- SM-D-72FXS
- SM-D-48FXS-E
- Cisco 8xx プラットフォーム上のオンボードアナログ FXS
- Cisco VG20x および VG2435 プラットフォーム上のオンボード アナログ FXS

例

次の例は、FXOLS 音声ポートでケーブル ポーリングを有効にする方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# voice-port 1/2/3
Device(config-voiceport)# cable-detect
```

関連コマンド

コマンド	説明
shutdown	特定の音声インターフェイス カードの音声ポートの状態をオフラインに変更します。

ケーブル検出ポーリングタイマー

アナログ音声ポートのバックグラウンドポーリングプロセスのケーブルポーリングタイマー値を設定するには、音声サービスコンフィギュレーションモードで **cable-detect-poll-timer** コマンドを使用します。ポーリングタイマーを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ケーブル検出ポーリングタイマー *timer-value*

no ケーブル検出ポーリングタイマー

構文の説明	タイマー値	ケーブルポーリングタイマーの値(分)。値の範囲は0～1440です。
-------	-------	-----------------------------------

コマンドデフォルト アナログ音声ポート上のケーブルポーリングは無効になっています。

コマンドモード 音声サービスの構成 (conf-voi-serv)

コマンド履歴	リリース	変更
	15.2(4)M	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **cable-detect-poll-timer** コマンドを使用して、アナログ Foreign Exchange Office End Ground Start (FXOGS)、Foreign Exchange Office End Loop Start (FXOLS)、Foreign Exchange Station End Ground Start (FXSGS)、および Foreign Exchange Station End Loop Start (FXSLS) 音声ポートのケーブルポーリングタイマー値を設定します。

例 次の例は、FXOLS 音声ポートでケーブルポーリングを有効にする方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# voice service pots
Device(conf-voi-serv)# cable-detect-poll-timer 100
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ケーブル検出	アナログ FXOGS、FXOLS、FXSGS、および FXSLS 音声ポートでのケーブルポーリングを有効にします。

cac_off

接続アドミSSION制御（CAC）を無効にするには、インターフェイスATMVCコンフィギュレーションモードで **cac_off** コマンドを使用します。CACを有効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cac_off
nocac_off

構文の説明	このコマンドにはキーワードも引数もありません。
コマンド デフォルト	通話許可制御が有効になっています。
コマンド モード	インターフェース-ATM-VC 構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
	12.3(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン 接続許可制御 (CAC) は、接続のセットアップ中に各 ATM スイッチによって実行される一連のアクションであり、要求されたサービス品質 (QoS) が確立された接続の QoS 保証に違反するかどうかを判定します。CAC は音声通話用の帯域幅を予約しますが、ロスレス圧縮コーデック (LLCC) の使用時に必要な帯域幅は動的であり、通常は CAC によって一般的に予約される帯域幅よりも小さくなります。CAC を無効にすると、LLCC の使用時に帯域幅をより有効に活用できるようになります。

例 次の例では、PVC 上のコール アドミSSION制御を無効にします。

```
interface ATM0/IMA1.1 point-to-point
pvc test1 15/135
cac_off
```

cache (ネイバー BE)

ネイバーから受信した記述子をキャッシュするようにローカル境界要素(BE)を設定するには、ネイバー BE コンフィギュレーションモードで **cache** コマンドを使用します。キャッシュを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cache
nocache

構文の説明 このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト キャッシュが有効になっていません

コマンド モード ネイバー BE 設定 (config-annexg-neigh)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。このリリースには、Cisco AS5300 ユニバーサル アクセス サーバ、Cisco AS5350、Cisco AS5400 のサポートは含まれていません。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、ローカル BE がネイバーから受信した記述子をキャッシュするように設定します。キャッシュが有効な場合、指定された間隔で近隣は記述子について照会されます。

例

次の例は、境界要素がその隣接要素からの記述子をキャッシュできるように有効になっていることを示しています。

```
Router(config-annexg-neigh)# id neighbor-id
Router(config-annexg-neigh)# cache
```

関連コマンド

コマンド	説明
ID	近隣のブリッジエンティティのローカル ID を設定します。
ポート	Annex G メッセージの交換に使用される近隣のポート番号を設定します。
クエリ間隔	ローカル BE が隣接 BE を照会する間隔を設定します。

キャッシュの再読み込み時間（グローバルアプリケーション設定モード）

ルータが定期的にキャッシュからスクリプトをリロードするように設定するには、グローバルアプリケーションコンフィギュレーションモードで **cachereloadtime** コマンドを使用します。値をデフォルトに設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cachereload時刻bg-分

nocachereload時刻

構文の説明

bg-分	バックグラウンドプロセスが起動されるまでの分数。このバックグラウンドプロセスは、スクリプトが最後に使用されてからの経過時間と、スクリプトが最新かどうかを確認します。 - スクリプトが最後の「アンロード時間」内に使用されなかった場合は、スクリプトをアンロードして終了します。アンロード時間は設定できません。 - スクリプトが使用されている場合、バックグラウンドプロセスは URL からスクリプトを読み込みます。スクリプトを比較し、一致しない場合は、新しい呼び出しに新しいスクリプトの使用を開始します。
------	---

コマンド デフォルト 30 分

コマンドモード

グローバルアプリケーション構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	callapplicationcachereloadtime コマンドはグローバル アプリケーション構成モードに移動され、 cachereloadtime に変更されました。

例

次の例は、バックグラウンドプロセスが起動されるまでの 15 分を指定するように設定された **cachereloadtime** コマンドを示しています。

アプリケーションとサービスを構成するには、アプリケーション構成モードに入ります。

```
application
```

グローバル アプリケーション構成モードに入ります。

```
global
```

キャッシュの再読み込み時間を設定します。

```
cache reload time 15
```

関連コマンド

コマンド	説明
呼び出しアプリケーションキャッシュ リロード時間	定期的にキャッシュからMGCPスクリプトをリロードするようにルータを設定します。
showcallapplicationvoice	ロードされているすべてのTclまたはMGCPスクリプトを表示します。

cadence

コールプログレス トーンのトーンオンとトーンオフの継続時間を定義するには、コールプログレス デュアルトーン設定モードで **cadence** コマンドを使用します。既定のケイデンスに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

{**cadence***cycle-1-on-time*サイクル1のオフ時間[*cycle-2-on-time*サイクル2オフタイム][*cycle-3-on-time*サイクル3のオフタイム][*cycle-4-on-time*サイクル4 オフタイム] | **連続**}
nocadence

構文の説明

<i>cycle-1-on-time</i>	リズムパターンの最初のサイクルのトーンオン期間（ミリ秒(ms)）。範囲は 0 ～ 1000 です。デフォルトは 0 です。
サイクル 1 のオフ時間	リズムパターンの最初のサイクルのトーンオフ期間（ミリ秒単位）。範囲は 0 ～ 1000 です。デフォルトは 0 です。
<i>cycle-2-on-time</i>	(オプション) リズムパターンの 2 番目のサイクルのトーンオン期間（ミリ秒単位）。範囲は 0 ～ 1000 です。デフォルトは 0 です。
サイクル 2 オフタイム	(オプション) リズムパターンの 2 番目のサイクルのトーンオフ期間（ミリ秒単位）。範囲は 0 ～ 1000 です。デフォルトは 0 です。
<i>cycle-3-on-time</i>	(オプション) リズムパターンの 3 番目のサイクルのトーンオン期間（ミリ秒単位）。範囲は 0 ～ 1000 です。デフォルトは 0 です。
サイクル 3 のオフタイム	(オプション) リズムパターンの 3 番目のサイクルのトーンオフ期間（ミリ秒単位）。範囲は 0 ～ 1000 です。デフォルトは 0 です。
<i>cycle-4-on-time</i>	(オプション) リズムパターンの 4 番目のサイクルのトーンオン期間（ミリ秒単位）。範囲は 0 ～ 1000 です。デフォルトは 0 です。
サイクル 4 オフタイム	(オプション) リズムパターンの 4 番目のサイクルのトーンオフ期間（ミリ秒単位）。範囲は 0 ～ 1000 です。デフォルトは 0 です。
連続	連続した通話進行トーンが検出されました。

コマンド デフォルト

連続

コマンド モード

通話進行デュアルトーン設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 で導入されました。

リリース	変更
12.2(2)T	このコマンドは Cisco 1750 に実装され、Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、カスタム コールプログレストーンのクラスのケイデンスを指定します。

音声ポートで検出する各ケイデンスを定義する必要があります。検出する追加のケイデンスごとにコマンドを再入力します。

このコマンドがトーン検出に影響を与えるには、カスタム コールプログレストーンのクラスを音声ポートに関連付ける必要があります。

例

次の例では、「country-x」という名前の custom-cptone 音声クラスのビジー トーンのリズムを定義します。この例では、500 ミリ秒のトーンオンと 500 ミリ秒のトーンオフを定義します。

```
voice class custom-cptone country-x
  dualtone busy
  cadence 500 500
```

次の例では、「country-x」という名前の custom-cptone 音声クラスのビジー トーンのデフォルトの周波数とリズム値の検出を設定します。デフォルトの周波数は 300 Hz のトーンで、デフォルトのリズムは連続的です。

```
voice class custom-cptone country-x
  dualtone busy
  no cadence
  no frequency
```

関連コマンド

コマンド	説明
supervisorycustom-cptone	カスタム通話進行トーンのクラスを音声ポートに関連付けます。
voiceclasscustom-cptone	カスタム通話進行トーンを定義するための音声クラスを作成します。
音声クラスデュアルトーン検出パラメータ	voiceclasscustom-cptone コマンドで定義されたカスタム コールプログレストーンの境界と制限を変更します。

cadence-list

検出するトーン リズム パターンを指定するには、音声クラス設定モードで **cadence-list** コマンドを使用します。 リズムパターンを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cadence-list ケイデンス ID *cycle-1-on-time* サイクル 1 のオフ時間

[*cycle-2-on-time cycle-2-off-time*][*cycle-3-on-time* サイクル 3 のオフタイム][*cycle-4-on-time* サイクル 4 オフタイム]

no cadence-list ケイデンス ID

構文の説明

ケイデンス ID	このケイデンス リストを識別するためのタグ。 値の範囲は 1 ～ 10 です。
<i>cycle-1-on-time</i>	リズムパターンの最初のサイクルのトーンの持続時間。 範囲は 0 ～ 1000 (0 ミリ秒 ～ 100 秒) です。 デフォルトは 0 です。
サイクル 1 のオフ時間	リズムパターンの最初のサイクルの無音期間。 範囲は 0 ～ 1000 (0 ミリ秒 ～ 100 秒) です。 デフォルトは 0 です。
<i>cycle-2-on-time</i>	(オプション) リズムパターンの 2 番目のサイクルのトーンの持続時間。 範囲は 0 ～ 1000 (0 ミリ秒 ～ 100 秒) です。 デフォルトは 0 です。
<i>cycle-2-off-time</i>	(オプション) リズムパターンの 2 番目のサイクルの無音期間。 範囲は 0 ～ 1000 (0 ミリ秒 ～ 100 秒) です。 デフォルトは 0 です。
<i>cycle-3-on-time</i>	(オプション) リズムパターンの 3 番目のサイクルのトーンの持続時間。 範囲は 0 ～ 1000 (0 ミリ秒 ～ 100 秒) です。 デフォルトは 0 です。
サイクル 3 のオフタイム	(オプション) リズムパターンの 3 番目のサイクルの無音期間。 範囲は 0 ～ 1000 (0 ミリ秒 ～ 100 秒) です。 デフォルトは 0 です。
<i>cycle-4-on-time</i>	(オプション) リズムパターンの 4 番目のサイクルのトーンの持続時間。 範囲は 0 ～ 1000 (0 ミリ秒 ～ 100 秒) です。 デフォルトは 0 です。
サイクル 4 オフタイム	(オプション) リズムパターンの 4 番目のサイクルの無音期間。 範囲は 0 ～ 1000 (0 ミリ秒 ～ 100 秒) です。 デフォルトは 0 です。

コマンド デフォルト

ケイデンスパターンが設定されていません。

コマンド モード

音声クラスの設定 (config-voice-class)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810 で導入されました。

使用上のガイドライン

ケイデンスリストを使用すると、ルータはPBXまたは公衆交換電話網（PSTN）からの複雑なトーンパターンを一致させることができます。設定されたケイデンスリストと一致する場合、トーンが検出されます。最大10個のケイデンスリストを作成できるため、ルータでは最大10個の異なるトーンパターンを検出できます。検出するトーンがオン/オフ サイクル1つだけで構成される場合は、次の2つの方法のいずれかで設定できます。

- **cycle-1-on-time**と **cycle-1-off-time**変数のみを使用してケイデンス リストを作成します。
- **cadence-max-off-time** コマンドと **cadence-min-on-time** コマンドを使用します。

また、**cadence-max-off-time** コマンドと **cadence-min-on-time**コマンドの時間を、**cadence-list** コマンドで指定されたオン時間とオフ時間と互換性を持つように設定する必要があります。**cadence-max-off-time** の時間は、ケイデンス リスト内の最長オフタイム以上である必要があります。**cadence-min-on-time** は、ケイデンス リスト内の最短オンタイム以下である必要があります。

例

次の例は、音声クラス 100 に対して、オン/オフ サイクルが3つあるケイデンス リスト1と、オン/オフ サイクルが2つあるケイデンス リスト2の設定を示しています。

```
voice class dualtone 100
 cadence-list 1 100 100 300 300 100 200
 cadence-list 2 100 200 100 400
```

関連コマンド

コマンド	説明
ケイデンス最大オフタイム	トーンの検出の最大オフ期間を指定します。
cadence-min-on-time	トーンの検出の最小オン期間を指定します。
voiceclassdualtone	FXO トーン検出パラメータの音声クラスを作成します。

ケイデンス最大オフタイム

トーンがオフになってもリズムの一部として検出される最大時間を指定するには、音声クラス設定モードで **cadence-max-off-time** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ケイデンス最大オフタイム時刻
no cadence-max-off-time

構文の説明	時間	検出できるトーンの前最大オフ時間 (10 ミリ秒単位)。範囲は 0 ～ 5000 (0 ミリ秒 ～ 50 秒) です。デフォルトは 0 です。
-------	----	---

コマンド デフォルト 0 (オフ時間なし)

コマンド モード
音声クラスの設定 (config-voice-class)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1(3)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 で導入されました。

使用上のガイドライン 検出するトーンの前時間よりも大きい時間値を指定し、リズムトーンの前検出を有効にするには 0 より大きい時間値を使用します。デフォルト (0) では、ルータは連続トーンのみを検出します。

例 次の例は、音声クラス 100 の前最大オフ期間を 20 秒に設定する例を示しています。

```
voice class dualtone 100
cadence-max-off-time 2000
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cadence-min-on-time	トーンの前検出の前最小オン期間を指定します。
	cadence-variation	トーンの前検出に許可されるケイデンスの前変動時間前を指定します。
	音声クラスデュアルトーン	FXO トーン検出パラメータの音声クラスを作成します。

cadence-min-on-time

トーンがオンになってリズムの一部として検出される最小時間を指定するには、音声クラス設定モードで **cadence-min-on-time** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cadence-min-on-time時刻

no cadence-min-on-time

構文の説明

時間	検出できるトーンの最小オン時間（10 ミリ秒単位）。範囲は 0 ～ 100 (0 ミリ秒 ～ 1 秒) です。デフォルトは 0 です。
----	---

コマンド デフォルト

0（オン時間の最小値なし）

コマンド モード

音声クラスの設定 (config-voice-class)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 で導入されました。

使用上のガイドライン

検出するトーンのオン時間よりも短い時間値を指定します。デフォルト (0) では、任意の長さのトーンが検出されます。

例

次の例は、音声クラス 100 に対して 30 ミリ秒 (10 ミリ秒の時間間隔が 3 つ) の最小オン期間を設定する方法を示しています。

```
voice class dualtone 100
  cadence-min-on-time 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
cadence-max-off-time	トーンの検出の最大オフ期間を指定します。
cadence-variation	トーンの検出に許可されるリズムの変化時間を指定します。
音声クラスデュアルトーン	FXO トーン検出パラメータの音声クラスを作成します。

cadence-variation

トーンの検出に許可されるケイデンスの変化時間を指定するには、音声クラス設定モードで **cadence-variation** コマンドを使用します。デフォルトのケイデンス変動時間を復元するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cadence-variation時刻

nocadence-variation

構文の説明

時間	トーンの開始が指定された開始時間から変化しても検出可能な最大時間(10 ミリ秒単位)。範囲は 0 ～ 200 (0 ミリ秒 ～ 2 秒) です。デフォルトは 10 です。
----	---

コマンド デフォルト

10 ミリ秒

コマンド モード

音声クラスの設定 (config-voice-class)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 で導入されました。
12.1(5)XM	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 に実装されました。
12.2(2)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合され、Cisco 1750 ルータに実装されました。

使用上のガイドライン

検出するトーンのリズムの変化よりも大きい時間値を指定します。デフォルトの 0 では、設定されたリズムに一致するトーンだけが検出されます。

このコマンドは、音声クラス内の 1 つのパラメータの検出制限を作成します。検出制限は任意の音声ポートに適用できます。

例

次の例では、音声クラス 100 に対して 30 ミリ秒のリズム変化時間を指定します。

```
voice class dualtone 100
 cadence-variation 30
```

次の例では、音声クラス 70 で許容される最大リズム変化として 80 ミリ秒 (10 ミリ秒の時間間隔が 8 つ) を指定します。

```
voice class dualtone-detect-params 70
 cadence-variation 80
```

関連コマンド

コマンド	説明
cadence-max-off-time	トーンの検出の最大オフ期間を指定します。
cadence-min-on-time	トーンの検出の最小オン期間を指定します。
supervisoryanswerdualtone	音声ポートでの応答監視を有効にします。
supervisorydualtone-detect-params	voiceclassdualtone-detect-params コマンドで定義された境界および検出許容パラメータを音声ポートに割り当てます。

通話会計テンプレート

特定の場所にあるアカウンティング テンプレートを選択するには、グローバル コンフィギュレーション モードまたはアプリケーション コンフィギュレーション モードで

callaccounting-template コマンドを使用します。特定のアカウンティングテンプレートを選択解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callaccounting-template *acctTempName* *url*
no **callaccounting-template** *acctTempName* *url*

構文の説明

<i>acctTempName</i>	テンプレート名。
<i>URL</i>	テンプレートの場所。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成 (config) アプリケーション構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 3660、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850。
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoiceaccounting-template コマンドを置き換えるためにアプリケーション設定モードに追加されました。

使用上のガイドライン

通話詳細レコードの場合、テンプレート名には **.cdr** 拡張子が必要です。アカウンティングのニーズに基づいて通話記録を選択し、選択した通話記録を生成するための適切なベンダー固有属性 (VSA) を定義するアカウンティング テンプレート (accounting template) の場所を指定するには、グローバル設定モードで **callaccounting-template** コマンドを使用します。

acctTempName 引数は、RADIUS サーバに送信する特定のアカウンティング テンプレート ファイルを参照します。このテンプレート ファイルは、アカウンティングのニーズに基づいて通話記録を制御するために選択した特定の VSA のみを定義します。

例

以下の例は、特定の TFTP アドレスから選択されたアカウンティング テンプレート **cdr1** を示しています。

```
call accounting-template temp-ivr tftp://kyer/sample/cdr/cdr1.cdr
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoiceaccounting-template	VoIP AAA 非ブロッキング API を使用して T.37 FAX アカウンティングを設定します。
showcallaccounting-templatevoice	特定の場所にあるアカウンティングテンプレートを選択します。

call accounting-template voice

特定の場所のアカウンティング テンプレートを選択するには、グローバル設定モードで **callaccounting-templatevoice** コマンドを使用します。特定のアカウント テンプレートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callaccounting-template 音声 *acctTempNameurl*
nocallaccounting-template 音声 *acctTempNameurl*

構文の説明	<i>acctTempName</i>	テンプレート名。
	<i>URL</i>	テンプレートの場所。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はない	
コマンド モード	グローバル構成 (config)	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 3660、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850。
	12.3(14)T	アプリケーション設定モードでは、 callaccounting-templatevoice コマンドは、 callaccounting-template コマンドに置き換えられます。詳細については、 callaccounting-template コマンドを参照してください。

使用上のガイドライン テンプレート名には .cdr 拡張子が必要です。

アカウント テンプレートのニーズに基づいてコール レコードを選択し、選択したコール レコードを生成するための適切なベンダー固有属性 (VSA) を定義するアカウント テンプレートの場所を指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **callaccounting-templatevoice** コマンドを使用します。

acctTempName 引数は、RADIUS サーバに送信する特定のアカウント テンプレート ファイルを指します。このテンプレート ファイルは、アカウント テンプレートのニーズに基づいて通話記録を制御するために選択した特定の VSA のみを定義します。

例

以下の例は、特定の TFTP アドレスから選択されたアカウント テンプレート **cdr1** を示しています。

```
call accounting-template voice temp-ivr tftp://kyer/sample/cdr/cdr1.cdr
```

関連コマンド

コマンド	説明
callaccounting-templatevoicereload	会計テンプレートを再読み込みします。
showcallaccounting-templatevoice	特定の場所にあるアカウントリングテンプレートを選択します。

call accounting-template voice reload

アカウンティング テンプレートをリロードするには、特権 EXEC モードで **callaccounting-templatevoicereload** コマンドを使用します。

callaccounting-template音声reload*acctTempName*

構文の説明

リロード	テンプレートが保存されているアドレス (たとえば、TFTP アドレス) からアカウンティング テンプレートをリロードします。
<i>acctTempName</i>	アカウンティング テンプレートの名前。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 3660、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850。

使用上のガイドライン

callaccounting-templatevoicereload コマンドを使用して、**callaccounting-templatevoice** コマンドで定義された URL からテンプレートをリロードします。起動後、TFTP サーバからテンプレートファイルの読み込みに失敗した場合、システムは5分間隔でファイルを自動的に再読み込みしようとします。

例

以下の例は、アカウンティング テンプレート **cdr2** をリロードする方法を示しています。

```
call accounting-template voice reload cdr2
```

関連コマンド

コマンド	説明
callaccounting-templatevoice	特定の場所にあるアカウンティング テンプレートを選択します
gw-accountingaaa	URL で定義された場所にあるテンプレートファイルを定義して読み込みます。
showcallaccounting-templatevoice	会計テンプレートに含まれる VSA を表示します。

call-agent

メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) プロファイルのコール エージェントを定義するには、MGCP プロファイル コンフィギュレーション モードで **call-agent** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

call-agent {DNS 名 *ip-address*}[ポート][**service-type** タイプ][**version** プロトコルバージョン]
no call-agent

構文の説明

DNS 名	コール エージェントの完全修飾ドメイン名 (ホスト部分を含む)。たとえば、「ca123.example.net」などです。
IP アドレス	コール エージェントの IP アドレス。
ポート	(オプション) ゲートウェイがコール エージェントにメッセージを送信するユーザ データグラム プロトコル (UDP) ポート番号。範囲は 1025 から 65535 です。 • MGCP 1.0、ネットワークベース コール シグナリング (NCS) 1.0、および Trunking Gateway Control Protocol (TGCP) 1.0 の場合、デフォルトのコール エージェント UDP ポートは 2727 です。 • MGCP 0.1 および Simple Gateway Control Protocol (SGCP) の場合、デフォルトのコール エージェント UDP ポートは 2427 です。
service-type <i>type</i>	(オプション) <i>type</i> 引数のプロトコル サービス タイプの有効な値は、 mgcp 、 ncs 、 sgcp 、および tgcp です。デフォルトのサービス タイプは mgcp です。
version <i>protocol-version</i>	(オプション) プロトコルのバージョン番号。有効値は次のとおりです。 • サービス タイプ MGCP - 0.1, 1.0 • サービス タイプ NCS -- 1.0 • サービス タイプ SGCP - 1.1, 1.5 • サービス タイプ TGCP -- 1.0 デフォルトのサービス タイプとバージョンは mgcp と 0.1 です。

コマンド デフォルト

MGCP 1.0、ネットワークベース コール シグナリング (NCS) 1.0、および Trunking Gateway Control Protocol (TGCP) 1.0 の場合、デフォルトのコール エージェント UDP ポートは 2727 です。MGCP 0.1 および Simple Gateway Control Protocol (SGCP) の場合、デフォルトのコール エージェント UDP ポートは 2427 です。デフォルトのサービス タイプとバージョンは MGCP 0.1 です。

コマンド モード

MGCP プロファイル 設定 (config-mgcp-profile)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、MGCP プロファイルの値を設定するときに使用されます。

MGCP プロファイルのコール エージェント設定（このコマンドを使用）とグローバル コール エージェント設定（**mgcp**call-agent コマンドを使用）は相互に排他的です。エンドポイントで最初に設定されると、同じエンドポイントでの他の設定がブロックされます。

call-agent コマンドで IP アドレスではなくドメインネームシステム (DNS) 名でコール エージェントを識別すると、DNS 名に複数の IP アドレスを関連付けることができるため、コール エージェントの冗長性が実現されます。コール エージェントが DNS 名で識別され、ゲートウェイからのメッセージがコール エージェントに到達できない場合は、**max1lookup** コマンドと **max2lookup** コマンドを使用して、DNS ルックアップテーブルから別の IP アドレスにあるバックアップ コール エージェントを検索できます。

port 引数は、コール エージェントのポート番号（ゲートウェイがコール エージェントにメッセージを送信する UDP ポート）を構成します。逆のポート（ゲートウェイポート番号、またはゲートウェイがコール エージェントからメッセージを受信するための UDP ポート）は、**mgcp** コマンドでポート番号を指定すると設定されます。

サービスタイプ **mgcp** は、**mgcp**restartnotify コマンドが有効になっている場合、ゲートウェイから送信される再起動進行中（RSIP）エラーメッセージをサポートします。サービス タイプ **sgcp** は RSIP メッセージを無視します。

例

次の例では、「tgcp_trunk」という名前の MGCP プロファイルのコール エージェントを定義します。

```
Router(config)# mgcp profile tgcp_trunk
Router(config-mgcp-profile)# call-agent 10.13.93.3 2500 service-type tgcp version 1.0
```

関連コマンド

コマンド	説明
max1lookup	疑いしきい値に達したときに、MGCP コール エージェント アドレスの DNS ルックアップを有効にします。
max2ルックアップ	切断しきい値に達したときに、MGCP コール エージェント アドレスの DNS ルックアップを有効にします。
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
mgcp call-agent	コール エージェント (メディア ゲートウェイ コントローラ) のアドレスを設定します。

コマンド	説明
mgcp プロファイル	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

call application alternate



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、グローバルアプリケーションコンフィギュレーションモードでは、**callapplicationalternate** コマンドが **service** コマンドに置き換えられました。詳細については、**service** コマンドを参照してください。

ダイヤルピアに設定されているアプリケーションに障害が発生した場合に使用する代替アプリケーションを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationalternate** コマンドを使用します。デフォルト動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication オプション [アプリケーション名]
nocallapplication オプション

構文の説明

アプリケーション名	(オプション) ダイヤルピア内のアプリケーションに障害が発生した場合に使用する特定の音声アプリケーションの名前。特定のアプリケーション名が入力されていない場合、ゲートウェイはデフォルトのアプリケーションを使用します。
-----------	--

コマンド デフォルト

ダイヤルピアのアプリケーションに障害が発生した場合、通話は拒否されます。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、グローバル アプリケーション構成モードでは service コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドが設定されていない場合、通話に一致するダイヤルピアが有効な音声アプリケーションを指定していないと、通話は拒否されます。

Cisco IOS リリース 12.2(11)T より前のリリースでは、ダイヤルピアにアプリケーションが設定されていない場合、または設定されたアプリケーションに障害が発生した場合、デフォルトのアプリケーション (DEFAULT) が自動的にトリガーされていました。**callapplicationalternate** コマンドが設定されている限り、デフォルトのアプリケーションは自動的に実行されなくなります。

DEFAULT というアプリケーションは、ダイヤル トーンを出力し、数字を収集し、ダイヤルした番号に電話をかけるシンプルなアプリケーションです。このアプリケーションは Cisco IOS ソフトウェアに含まれているため、ダウンロードしたり、**callapplicationvoice** コマンドを使用して設定したりする必要はありません。

callapplicationalternate コマンドは、ダイヤルピアに設定されているアプリケーションに障害が発生した場合に、デフォルトの音声アプリケーションが実行されることを指定します。特定のアプリケーションの名前を入力すると、ダイヤルピアに設定されているアプリケーションに障害が発生した場合に、そのアプリケーションがトリガーされます。代替アプリケーションも失敗した場合、通話は拒否されます。

アプリケーション名を入力する場合は、まず **callapplicationvoice** コマンドを使用して、そのアプリケーションをゲートウェイで設定する必要があります。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application alternate
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
service
```

次の例では、DEFAULT アプリケーションを代替として構成します。

```
call application alternate
```

次の例では、アプリケーション セッションを代替として構成します。

```
call application alternate session
```

関連コマンド

コマンド	説明
アプリケーション	ダイヤルピアで音声アプリケーションを有効にします。
callapplicationvoice	音声アプリケーションの名前を定義し、このアプリケーションにロードする Tcl または VoiceXML ドキュメントの場所を指定します。
サービス	ダイヤルピア上の特定のスタンドアロン アプリケーションをロードして設定します。
showcallapplicationvoice	音声アプリケーションに関する情報を表示します。

call application cache reload time



(注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーションコンフィギュレーショングローバルモードでは、**callapplicationcachereloadtime** コマンドは **cachereloadtime** コマンドに置き換えられました。詳細については、**cachereloadtime** コマンドを参照してください。

ルータが定期的にキャッシュから Media Gateway Control Protocol (MGCP) スクリプトをリロードするように設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationcachereloadtime** コマンドを使用します。値をデフォルトに設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplicationcachereload時刻*bg-minutes*
nocallapplicationcachereload時刻

構文の説明	<i>bg-minutes</i> バックグラウンドプロセスが起動されるまでの分数を指定します。このバックグラウンドプロセスは、スクリプトが最後に使用されてからの経過時間と、スクリプトが最新かどうかを確認します。 - スクリプトが最後の「アンロード時間」内に使用されなかった場合は、スクリプトをアンロードして終了します。アンロード時間は設定できません。 - スクリプトが使用されている場合、バックグラウンドプロセスは URL からスクリプトを読み込みます。スクリプトを比較し、一致しない場合は、新しい呼び出しに新しいスクリプトの使用を開始します。
-------	---

コマンド デフォルト 30 分

コマンド モード
グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース 変更
12.1(3)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成グローバル モードでは cachereloadtime コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application cache reload 20
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
cache reload time
```

次の例は、バックグラウンドプロセスが起動されるまでの 30 分を指定するように設定された **callapplicationcachereloadtime** コマンドを示しています。

```
call application cache reload time 30
```

関連コマンド

コマンド	説明
キャッシュリロード時間	定期的にキャッシュからスクリプトをリロードするようにルータを設定します。
callapplicationvoiceload	MGCP スクリプトパッケージ経由でロードされたアプリケーションのリロードを許可します。
showcallapplicationvoice	ロードされているすべての Tcl または MGCP スクリプトを表示します。

call application dump event-log

アプリケーション インスタンスのイベント ログ バッファを外部ファイルにフラッシュするには、特権 EXEC モードで **callapplicationdumpevent-log** コマンドを使用します。

callapplication ダンプ イベント ログ

構文の説明	このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。	
コマンド モード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドは、グローバル コンフィギュレーション モードの callapplicationevent-logdumpftp コマンドで定義されている場所にある外部ファイルに、イベント ログ バッファを直ちに書き込みます。	



(注) **callapplicationdumpevent-log** コマンドと **callapplicationevent-logdumpftp** コマンドは 2 つの異なるコマンドです。

例
次の例では、アプリケーション イベント ログ バッファをフラッシュします。

```
Router# call application dump event-log
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callapplicationevent-log	音声アプリケーションインスタンスのイベント ログ を有効にします。
	callapplicationevent-logdumpftp	ゲートウェイがアプリケーション イベント ログ バッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。
	callapplicationevent-logmax-buffer-size	各アプリケーションインスタンスのイベント ログ バッファの最大サイズを設定します。
	表示呼び出しアプリケーションセッションレベル	音声アプリケーションインスタンスのイベント ログ と統計を表示します。

call application event-log



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニタ モードで **callapplicationevent-log** コマンドが **event-log** コマンドに置き換えられました。詳細については、**event-log** コマンドを参照してください。

すべての音声アプリケーション インスタンスのイベント ログを有効にするには、グローバル コンフィギュレーションモードで **callapplicationevent-log** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication イベントログ
nocallapplication イベントログ

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

音声アプリケーションのイベント ログが無効になっています。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニタ モードでは event-log コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、すべての音声アプリケーション インスタンスのイベント ログをグローバルに有効にします。特定のアプリケーションのイベント ログを有効または無効にするには、**callapplicationvoiceevent-log** コマンドを使用します。



(注) イベントログが本番トラフィックのシステムリソースに悪影響を及ぼさないようにするために、ゲートウェイはスロットリングメカニズムを使用します。プロセッサメモリの空きが20%を下回ると、ゲートウェイは自動的にすべてのイベントログを無効にします。メモリの空きが30%を超えるとイベントログが再開されます。スロットリングが行われている間は、イベントログが有効になっていても、ゲートウェイは新しいイベントログをキャプチャしません。空きメモリを監視し、障害の切り分けに必要な場合にのみイベントログを有効にしてください。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application event-log
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
event-log
```

次の例では、すべてのアプリケーション インスタンスのイベント ログを有効にします。

```
call application event-log
```

関連コマンド

コマンド	説明
呼び出しアプリケーションイベント ログエラーのみ	イベント ログをアプリケーション インスタンスのエラー イベントのみに制限します。
呼び出しアプリケーションイベント ログ最大バッファサイズ	各アプリケーションインスタンスのイベントログバッファの最大サイズを設定します。
呼び出しアプリケーションインター フェースイベントログ	音声アプリケーションで使用する外部インターフェースのイベント ログを有効にします。
通話アプリケーション統計	音声アプリケーションの統計収集を有効にします。
callapplicationvoiceevent-log	特定の音声アプリケーションのイベント ログを有効にします。
callegイベントログ	音声、ファックス、モデムのコール レッグのイベント ログを有効にします。
イベントログ	アプリケーションのイベントログを有効にします。
monitorcallapplicationevent-log	アクティブなアプリケーション インスタンスのイベント ログをリアルタイムで表示します。
showcallapplication-session-level	音声アプリケーションインスタンスのイベントログと統計を表示します。

call application event-log dump ftp



- (注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニターモードで **callapplicationevent-logdumpftp** コマンドは、**event-logdumpftp** コマンドに置き換えられました。詳細については、**event-logdumpftp** コマンドを参照してください。

ゲートウェイがアプリケーションイベント ログバッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationevent-logdumpftp** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication イベント ログ ダンプ FTP サーバ (Server) [:ポート]/ファイル **username** ユーザ名 (username) パスワード [[暗号化タイプ]] パスワード
nocallapplication イベント ログ ダンプ FTP

構文の説明

サーバ	ファイルが保存されている FTP サーバの名前または IP アドレス。
:port	(オプション) サーバ上の特定のポート番号。
/ファイル	ファイルの名前とパス。
ユーザ名	ファイルにアクセスするにはユーザ名が必要です。
暗号化タイプ	(オプション) パスワードの暗号化に使用される Cisco 独自のアルゴリズム。値は 0 または 7 です。暗号化を無効にするには 0 を入力し、暗号化を有効にするには 7 を入力します。7 を指定する場合は、暗号化されたパスワード (Cisco ルータによってすでに暗号化されているパスワード) を入力する必要があります。
パスワード	ファイルにアクセスするにはパスワードが必要です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニターモードでは event-logdumpftp コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン このコマンドにより、アクティブなアプリケーションインスタンスが終了した後、またはイベントログバッファがいっぱいになったときに、ゲートウェイがイベントログバッファを指定されたファイルに自動的に書き込むことができますようになります。デフォルトのバッファサイズは4 KBです。バッファのサイズを変更するには、**callapplicationevent-logmax-buffer-size** コマンドを使用します。イベントログバッファを手動でフラッシュするには、特権 EXEC モードで **callapplicationdumpevent-log** コマンドを使用します。



(注) **callapplicationdumpevent-log** コマンドと **callapplicationevent-logdumpftp** コマンドは2つの異なるコマンドです。

ゲートウェイがイベントログをFTPに書き込めるようにすると、次のような場合に、一部のシナリオでゲートウェイのメモリリソースに悪影響を与える可能性があります。

- ゲートウェイは大量のプロセッサリソースを消費しており、FTPにはログに記録されたバッファをFTPサーバにフラッシュするのに十分なプロセッサリソースがありません。
- 指定されたFTPサーバは、FTP転送を迅速に実行するのに十分な性能がありません。
- ゲートウェイとFTPサーバ間のリンクの帯域幅が十分ではありません
- ゲートウェイは大量の短時間の通話や失敗した通話を受信しています

FTPダンプは必要な場合にのみ有効化してください。システムパフォーマンスに悪影響を与える可能性がある場合には有効化しないでください。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンドオプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application event-log dump ftp
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
event-log dump ftp
```

次の例では、ゲートウェイがftp-serverというサーバ上のapp_elogs.logという外部ファイルにアプリケーションイベントログを書き込むことができますようにします。

```
call application event-log dump ftp ftp-server:/elogs/app-elogs.log username myname
password 0 mypass
```

次の例では、アプリケーションイベントログが、IPアドレス10.10.10.101を持つサーバ上のapp_elogs.logという名前の外部ファイルに書き込まれるように指定します。

```
call application event-log dump ftp 10.10.10.101:/elogs/app-elogs.log username myname
password 0 mypass
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationdumpevent-log	アプリケーションインスタンスのイベントログバッファを外部ファイルにフラッシュします。

コマンド	説明
callapplicationevent-log	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログを有効にします。
呼び出しアプリケーションイベント ログ最大バッファサイズ	各アプリケーション インスタンスのイベント ログ バッファの最大サイズを設定します。
イベントログダンプftp	ゲートウェイがアプリケーションイベントログバッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。
表示呼び出しアプリケーションセッ ションレベル	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログと統計を表示します。

call application event-log error-only



- (注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニターモードで **callapplicationevent-logerror-only** コマンドが **event-logerror-only** コマンドに置き換えられました。詳細については、**event-logerror-only** コマンドを参照してください。

イベントログをアプリケーションインスタンスのエラーイベントのみに制限するには、グローバル設定モードで **callapplicationevent-logerror-only** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication イベントログエラーのみ
nocallapplication イベントログエラーのみ

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

すべてのアプリケーション イベントがログに記録されます。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニター モードでは event-logerror-only コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、新しいイベント ログをエラー イベントのみに制限します。ログ記録を有効にするわけではありません。このコマンドは、すべての音声アプリケーションのイベント ログを有効にする **callapplicationevent-log** コマンド、または特定のアプリケーションのイベント ログを有効にする **callapplicationvoiceevent-log** コマンドのいずれかと一緒に使用する必要があります。このコマンドが発行される前に記録されたイベントは影響を受けません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application event-log error-only
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
event-log error-only
```

次の例では、エラー イベントのみのイベント ログを有効にします。

```
call application event-log  
call application event-log error-only
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationevent-log	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログを有効にします。
呼び出しアプリケーション履歴セッションイベントログ例外のみ保存	少なくとも1つのエラーがあるアプリケーションインスタンスのイベント ログのみを履歴に保存します。
callapplicationvoiceevent-log	特定の音声アプリケーションのイベント ログを有効にします。
イベントログエラーのみ	イベントログをアプリケーションインスタンスのエラー イベントのみに制限します。
showcallapplicationapp-level	音声アプリケーションのアプリケーションレベルの統計を表示します。
showcallapplicationsession-level	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログと統計を表示します。

call application event-log max-buffer-size



(注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニタ モードで **callapplicationevent-logmax-buffer-size** コマンドが **event-logmax-buffer-size** コマンドに置き換えられました。詳細については、**event-logmax-buffer-size** コマンドを参照してください。

各アプリケーション インスタンスのイベント ログ バッファの最大サイズを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationevent-logmax-buffer-size** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication イベントログ最大バッファサイズキロバイト
nocallapplication イベントログ最大バッファサイズ

構文の説明	キロバイト	最大バッファ サイズ (キロバイト)。 値の範囲は 1 ～ 50 です。デフォルトは 4 です。
コマンド デフォルト	4 キロバイト	
コマンド モード	グローバル構成 (config)	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
	12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニタ モードでは event-logmax-buffer-size コマンドに置き換えられました。
	12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン イベント ログ バッファがこのコマンドで設定された制限に達すると、ゲートウェイは同じサイズの 2 番目のバッファを割り当てます。 **showcallapplication-session-level** コマンドを使用すると、両方のバッファの内容が表示されます。 最初のイベントログバッファがいっぱいになると、**callapplicationevent-logdumpftp** コマンドが使用されている場合、ゲートウェイはその内容を自動的に外部の FTP ロケーションに追加します。

イベント ログには最大 2 つのバッファが割り当てられます。 両方のバッファがいっぱいになった場合、最初のバッファは削除され、別のバッファが新しいイベント用に割り当てられます (バッファがラップアラウンドします)。 **callapplicationevent-logdumpftp** コマンドが設定されており、最初のバッファがダンプされる前に 2 番目のバッファがいっぱいになると、イベントメッセージはドロップされ、バッファに記録されません。

最大バッファ サイズを、一般的なアプリケーションセッションに必要なサイズよりも大きく設定しないでください。アクティブセッションが終了すると、バッファによって使用されるメモリの量が履歴テーブルに割り当てられ、**callapplicationhistorysessionretain-timer** コマンドで設定された時間だけ維持されます。また、致命的なエラーのほとんどはイベント ログの最後に記録されることにも留意してください。

メモリ リソースを節約するには、**callapplicationevent-logdumpftp** コマンドを使用して、イベント ログ バッファを FTP に書き込みます。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application event-log max-buffer-size
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
event-log max-buffer-size
```

次の例では、アプリケーション イベント ログ バッファを 8 キロバイトに設定します。

```
call application event-log
call application event-log max-buffer-size 8
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationdumpevent-log	アプリケーション インスタンスのイベント ログ バッファを外部ファイルにフラッシュします。
callapplicationevent-log	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログを有効にします。
callapplicationevent-logdumpftp	ゲートウェイがアプリケーション イベント ログ バッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。
イベントログ最大バッファサイズ	各アプリケーション インスタンスのイベント ログ バッファの最大サイズを設定します。
表示呼び出しアプリケーションセッションレベル	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログと統計を表示します。

call application global



(注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーション設定モードで **callapplicationglobal** コマンドが **global** コマンドに置き換えられました。詳細については、**global** コマンドを参照してください。

着信ダイヤルピアに明示的なアプリケーションが設定されていない着信コールに使用するアプリケーションを設定するには、グローバル設定モードで **callapplicationglobal** コマンドを使用します。アプリケーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication グローバルアプリケーション名
nocallapplication グローバルアプリケーション名

構文の説明

アプリケーション名	アプリケーションの名前を定義する文字列。
-----------	----------------------

コマンド デフォルト

デフォルトのアプリケーションは、すべてのダイヤルピアの **デフォルト** です。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(15)ZJ	このコマンドが導入されました。
12.3(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(4)T に統合されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モードでは global コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

ダイヤルピアで定義されたアプリケーションは、**callapplicationglobal** コマンドで設定されたグローバルアプリケーションよりも常に優先されます。このコマンドで設定されたアプリケーションは、ダイヤルピアにアプリケーションが設定されていない場合にのみ実行されます。

このコマンドで設定するアプリケーションは、デフォルトのセッションアプリケーション以外のアプリケーションでもかまいませんが、このコマンドを使用する前に、そのアプリケーションが Cisco IOS ソフトウェアに含まれているか、**callapplicationvoice** コマンドを使用してゲートウェイにロードされている必要があります。アプリケーションが Cisco IOS ソフトウェアに存在しないか、ゲートウェイにロードされていない場合、このコマンドは効果がありません。



- (注) Cisco IOS Release 12.3(4)T 以降のリリースで、アプリケーション名のデフォルトは、Open Settlement Protocol (OSP)、通話転送、および着信通知をサポートするアプリケーションを指します。Cisco IOS Release 12.2(13)T 以前のリリースのデフォルトセッションアプリケーションは default.old.c に名前が変更されましたが、**application** コマンドを使用して特定のダイヤルピアに対して引き続き設定することも、**callapplicationglobal** コマンドを使用してすべての着信ダイヤルピアに対してグローバルに設定することもできます。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application global
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
global
```

次の例では、clid_authen_collect アプリケーションは、特定のアプリケーションが設定されていないすべての着信ダイヤルピアのグローバルアプリケーションとして設定されます。

```
call application global clid_authen_collect
```

関連コマンド

コマンド	説明
アプリケーション	ダイヤルピア上の特定の IVR アプリケーションを有効にします。
callapplicationvoice	アプリケーションに使用する名前を定義し、このアプリケーションで使用する適切な IVR スクリプトの場所を示します。
グローバル	アプリケーション構成モードに入ります。

call application history session event-log save-exception-only



- (注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニターモードで **callapplicationhistorysessionevent-logsave-exception-only** コマンドは **historysessionevent-logsave-exception-only** コマンドに置き換えられました。詳細については、**historysessionevent-logsave-exception-only** コマンドを参照してください。

少なくとも 1 つのエラーがあるアプリケーションセッションのイベント ログのみを履歴に保存するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationhistorysessionevent-logsave-exception-only** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication履歴セッションイベントログsave-exception-only
nocallapplication履歴セッションイベントログ保存例外のみ

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

セッションのすべてのイベント ログは履歴に保存されます。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニター モードでは historysessionevent-logsave-exception-only コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

インスタンスが終了すると、アプリケーション イベント ログはアクティブから履歴に移動します。このコマンドを使用すると、音声ゲートウェイは、1 つ以上のエラーが発生したインスタンスのイベント ログのみを保存します。エラーが含まれていない通常のインスタンスのイベント ログは履歴に保存されません。



- (注) このコマンドは、**callapplicationdumpevent-log** コマンドを使用して FTP サーバに保存されたレコードには影響しません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application history session event-log save-exception-only
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
history session event-log save-exception-only
```

次の例では、インスタンスにエラーがあった場合にのみ、イベント ログを履歴に保存します。

```
call application history session event-log save-exception-only
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationevent-log	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログを有効にします。
callapplicationevent-logerror-only	イベント ログをアプリケーション インスタンスのエラー イベントのみに制限します。
呼び出しアプリケーションイベントログ最大バッファサイズ	各アプリケーション インスタンスのイベント ログバッファの最大サイズを設定します。
通話アプリケーション履歴セッション最大レコード数	履歴に保存されるアプリケーション インスタンスレコードの最大数を設定します。
通話アプリケーション履歴セッション保持タイマー	アプリケーション インスタンス レコードが履歴に保存される最大分数を設定します。
historysessionevent-logsave-exception-only	少なくとも 1 つのエラーがあるアプリケーション セッションのイベント ログのみを履歴に保存します。

call application history session max-records



(注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニタ モードでの **callapplicationhistorysessionmax-records** コマンドは **historysessionmax-records** コマンドに置き換えられました。詳細については、**historysessionmax-records** コマンドを参照してください。

履歴に保存されるアプリケーション インスタンス レコードの最大数を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationhistorysessionmax-records** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication履歴セッション最大レコード数`number`
nocallapplication履歴セッション最大レコード数

構文の説明	<code>number</code>	履歴に保存するレコードの最大数。値の範囲は 0 ～ 2000 です。デフォルトは 360 です。
-------	---------------------	--

コマンド デフォルト 360

コマンド モード
 グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
	12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニタ モードでは historysessionmax-records コマンドに置き換えられました。
	12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン このコマンドは、**showcallapplicationhistorysession-level** コマンドを使用するときに表示されるレコードの数に影響します。

例 Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application history session max-records
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
        history session max-records
```

次の例では、最大レコード制限を 500 に設定します。

```
call application history session max-records 500
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationevent-log	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログを有効にします。
呼び出しアプリケーション履歴セッションイベントログ例外のみ保存	少なくとも 1 つのエラーがあるアプリケーション インスタンスのイベントログのみを履歴に保存します。
通話アプリケーション履歴セッション保持タイマー	アプリケーション インスタンス レコードが履歴に保存される最大分数を設定します。
履歴セッション最大レコード数	履歴に保存されるアプリケーション インスタンス レコードの最大数を設定します。
表示呼び出しアプリケーションセッションレベル	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログと統計を表示します。

呼び出しアプリケーション履歴セッション保持タイマー



(注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニターモードで **callapplicationhistorysessionretain-timer** コマンドは **historysessionretain-timer** コマンドに置き換えられました。詳細については、**historysessionretain-timer** コマンドを参照してください。

アプリケーションインスタンスレコードが履歴に保存される最大分数を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationhistorysessionretain-timer** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication履歴セッション保持タイマー分
いいえ**callapplication**履歴セッション保持タイマー

構文の説明

分	履歴レコードが保存される最大時間（分）。範囲は 0 ～ 4294,967,295 です。デフォルトは 15 です。
---	---

コマンド デフォルト

15

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニタ モードでは historysessionretain-timer コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しいCLIへの自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、**showcallapplicationhistorysession-level** コマンドを使用するときに表示されるレコードの数に影響します。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application history session retain-timer
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
history session retain-timer
```

次の例では、履歴レコードを保存する最大時間を 1 時間に設定します。

```
call application history session retain-timer 60
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationevent-log	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログを有効にします。
呼び出しアプリケーション履歴セッションイベントログ例外のみ保存	少なくとも 1 つのエラーがあるアプリケーション インスタンスのイベントログのみを履歴に保存します。
通話アプリケーション履歴セッション最大レコード数	履歴に保存されるアプリケーション インスタンス レコードの最大数を設定します。
履歴セッション保持タイマー	アプリケーション インスタンス レコードが履歴に保存される最大分数を設定します。
表示呼び出しアプリケーションセッションレベル	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログと統計を表示します。

call application interface dump event-log

アプリケーション インターフェイスのイベント ログ バッファを外部ファイルにフラッシュするには、特権 EXEC モードで **callapplicationinterfacedumpevent-log** コマンドを使用します。

callapplicationインターフェイスダンプイベントログ

構文の説明	このコマンドには引数もキーワード也没有しません。				
コマンド モード	特権 EXEC (#)				
コマンド履歴	<table border="1"> <tr> <td>リリース</td><td>変更</td></tr> <tr> <td>12.3(8)T</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr> </table>	リリース	変更	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
リリース	変更				
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	このコマンドは、グローバル設定モードで callapplicationinterfaceevent-logdumpftp コマンドを使用して、場所が定義された外部ファイルに、イベントログバッファをただちに書き込みます。				



(注) **callapplicationinterfacedumpevent-log** コマンドと **callapplicationinterfaceevent-logdumpftp** コマンドは2つの異なるコマンドです。

例

次の例では、イベント ログ バッファを int_els という名前の外部ファイルに書き込みます。

```
Router(config)# call application interface event-log dump ftp ftp-server/int_els.log
username myname password 0 mypass
Router(config)# exit
Router# call application interface dump event-log
```

関連コマンド	<table border="1"> <tr> <th>コマンド</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>callapplicationinterfaceevent-log</td><td>音声アプリケーションで使用される外部インターフェイスのイベント ログを有効にします。</td></tr> <tr> <td>callapplicationinterfaceevent-logdumpftp</td><td>音声ゲートウェイがインターフェイス イベント ログ バッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。</td></tr> </table>	コマンド	説明	callapplicationinterfaceevent-log	音声アプリケーションで使用される外部インターフェイスのイベント ログを有効にします。	callapplicationinterfaceevent-logdumpftp	音声ゲートウェイがインターフェイス イベント ログ バッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。
コマンド	説明						
callapplicationinterfaceevent-log	音声アプリケーションで使用される外部インターフェイスのイベント ログを有効にします。						
callapplicationinterfaceevent-logdumpftp	音声ゲートウェイがインターフェイス イベント ログ バッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。						

コマンド	説明
呼び出しアプリケーションインターフェイスイベントログ最大バッファサイズ	各アプリケーションインターフェイスのイベント ログ バッファの最大サイズを設定します。
表示呼び出しアプリケーションインターフェイス	アプリケーションインターフェイスのイベント ログ と統計を表示します。

call application interface event-log



(注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニターモードで **callapplicationinterfaceevent-log** コマンドは **interfaceevent-log** コマンドに置き換えられました。詳細については、**interfaceevent-log** コマンドを参照してください。

音声アプリケーションにサービスを提供するインターフェイスのイベントログを有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationinterfaceevent-log** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication インターフェイス イベント ログ [{aaa | asr | flash | http | ram | rtsp | smtp | tftp | tts} [server サーバ (Server)] [無効化]]

nocallapplication インターフェイス イベント ログ [{aaa | asr | flash | http | ram | rtsp | smtp | tftp | tts} [server サーバ (Server)] [無効化]]

構文の説明

aaa	認証、許可、アカウントिंग (AAA) インターフェイス タイプ。
asr	自動音声認識 (ASR) インターフェース タイプ。
フラッシュ	Cisco ゲートウェイのフラッシュ メモリ。
http	ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP) インターフェイス タイプ。
ram	Cisco ゲートウェイのメモリ。
rtsp	リアルタイム ストリーミング プロトコル (RTSP) インターフェイス タイプ。
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) インターフェイス タイプ。
tftp	簡易ファイル転送プロトコル (TFTP) インターフェイス タイプ。
tts	テキスト読み上げ (TTS) インターフェース タイプ。
サーバサーバ	(オプション) サーバ名または IP アドレス。
disable	(オプション) 指定されたインターフェイス タイプまたはサーバのイベント ログを無効にします。

コマンド デフォルト

アプリケーション インターフェイスのイベント ログが無効になっています。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニタ モードでは interfaceevent-log コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しいCLIへの自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、特定のインターフェイスタイプまたはサーバを選択しない限り、すべてのインターフェイス タイプおよびサーバに対してイベント ログをグローバルに有効にします。インターフェイス タイプを指定すると、特定のインターフェイス タイプに対するグローバル コマンドよりも優先されます。個々のサーバの指定は、インターフェイス タイプよりも優先されます。



- (注) イベントログが本番トラフィックのシステムリソースに悪影響を及ぼさないようにするために、ゲートウェイはスロットリングメカニズムを使用します。プロセッサメモリの空きが20%を下回ると、ゲートウェイは自動的にすべてのイベントログを無効にします。メモリの空きが30%を超えるとイベント ログが再開されます。スロットリングが行われている間は、イベント ログが有効になっていても、ゲートウェイは新しいイベント ログをキャプチャしません。空きメモリを監視し、障害の切り分けに必要な場合にのみイベントログを有効にしてください。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application interface event-log
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
interface event-log
```

次の例では、すべてのインターフェースのイベント ログを有効にします。

```
call application interface event-log
```

次の例では、HTTP インターフェースに対してのみイベント ログを有効にします。

```
call application interface event-log http
```

次の例では、HTTPを除くすべてのインターフェースのイベント ログを有効にします。

```
call application interface event-log
call application interface event-log http disable
```

次の例では、IP アドレスが 10.10.1.1 のサーバを除くすべての HTTP サーバのイベント ログを有効にします。

```
call application interface event-log http
call application interface event-log http server http://10.10.1.1 disable
```

関連コマンド

コマンド	説明
呼び出しアプリケーションインターフェイスイベントログダンプFTP	ゲートウェイがインターフェイス イベント ログ バッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。
呼び出しアプリケーションインターフェイスイベントログエラーのみ	イベント ログをアプリケーション インターフェイスのエラー イベントのみに制限します。
呼び出しアプリケーションインターフェイスイベントログ最大バッファサイズ	各アプリケーション インターフェイスのイベント ログ バッファの最大サイズを設定します。
呼び出しアプリケーションインターフェイス最大サーバレコード	保存されるアプリケーション インターフェイス レコードの最大数を設定します。
呼び出しアプリケーションインターフェイス統計	アプリケーション インターフェイスの統計収集を有効にします。
インターフェイスイベントログ	音声アプリケーションにサービスを提供するインターフェイスのイベント ログを有効にします。
showcallapplicationinterface	アプリケーション インターフェイスのイベント ログと統計を表示します。

call application interface event-log dump ftp



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニタ モードで、**callapplicationinterfaceevent-logdumpftp** コマンドは **interfaceevent-logdumpftp** コマンドに置き換えられました。詳細については、**interfaceevent-logdumpftp** コマンドを参照してください。

ゲートウェイがインターフェイス イベント ログ バッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationinterfaceevent-logdumpftp** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callアプリケーションインターフェイスイベントログダンプFTPサーバ (Server) [:ポート]/ファイル**username**ユーザ名 (*username*) パスワード[[暗号化タイプ]]パスワード
nocallapplicationインターフェイスイベントログダンプFTP

構文の説明

サーバ	ファイルが保存されている FTP サーバの名前または IP アドレス。
: <i>port</i>	(オプション) サーバ上の特定のポート番号。
/ファイル	ファイルの名前とパス。
ユーザ名ユーザ名	ファイルにアクセスするにはユーザ名が必要です。
暗号化タイプ	(オプション) パスワードの暗号化に使用される Cisco 独自のアルゴリズム。値は 0 または 7 です。暗号化を無効にするには 0 を入力し、暗号化を有効にするには 7 を入力します。7 を指定する場合は、暗号化されたパスワード (Cisco ルータによってすでに暗号化されているパスワード) を入力する必要があります。
パスワードパスワード	ファイルにアクセスするにはパスワードが必要です。

コマンド デフォルト

インターフェイス イベント ログ バッファは外部ファイルに書き込まれません。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニタ モードでは interfaceevent-logdumpftp コマンドに置き換えられました。

リリース	変更
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドにより、バッファがいっぱいになったときにゲートウェイがインターフェイスイベントログバッファを指定されたファイルに自動的に書き込むことができますようになります。デフォルトのバッファ サイズは 4 KB です。バッファのサイズを変更するには、**callapplicationinterfaceevent-logmax-buffer-size** コマンドを使用します。イベントログバッファを手動でフラッシュするには、特権 EXEC モードで **callapplicationinterfacedumpevent-log** コマンドを使用します。



(注) **callapplicationinterfacedumpevent-log** コマンドと **callapplicationinterfaceevent-logdumpftp** コマンドは 2 つの異なるコマンドです。

- ゲートウェイがイベント ログを FTP に書き込めるようにすると、次のようなシナリオでゲートウェイのメモリ リソースに悪影響が及ぶ可能性があります。
 - ゲートウェイは大量のプロセッサリソースを消費しており、FTP にはログに記録されたバッファを FTP サーバにフラッシュするのに十分なプロセッサ リソースがありません。
 - 指定された FTP サーバは、FTP 転送を迅速に実行するのに十分な性能がありません。
 - ゲートウェイと FTP サーバ間のリンクの帯域幅が十分ではありません
 - ゲートウェイは大量の短時間の通話や失敗した通話を受信しています

FTP ダンプは必要な場合にのみ有効化してください。システムパフォーマンスに悪影響を与える可能性がある場合には有効化しないでください。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application interface event-log dump ftp
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
interface event-log dump ftp
```

次の例では、インターフェイス イベント ログが ftp-server というサーバ上の int_elogs.log という外部ファイルに書き込まれるように指定します。

```
call application interface event-log dump ftp ftp-server/elogs/int_elogs.log username
myname password 0 mypass
```

次の例では、アプリケーション イベント ログが、IP アドレス 10.10.10.101 を持つサーバ上の int_elogs.log という名前の外部ファイルに書き込まれるように指定します。

```
call application interface event-log dump ftp 10.10.10.101/elogs/int_elogs.log username
myname password 0 mypass
```

関連コマンド

コマンド	説明
呼び出しアプリケーションインターフェースダンプイベントログ	アプリケーション インターフェイスのイベント ログバッファを外部ファイルにフラッシュします。
呼び出しアプリケーションインターフェースイベントログ	音声アプリケーションで使用する外部インターフェースのイベント ログを有効にします。
呼び出しアプリケーションインターフェースイベントログ最大バッファサイズ	各アプリケーション インターフェイスのイベント ログ バッファの最大サイズを設定します。
呼び出しアプリケーションインターフェース最大サーバレコード	保存されるアプリケーション インターフェイス レコードの最大数を設定します。
インターフェースイベントログダンプftp	ゲートウェイがインターフェイスイベントログバッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。
showcallapplicationinterface	アプリケーション インターフェイスのイベント ログと統計を表示します。

call application interface event-log error-only



(注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニターモードにおいて、**callapplicationinterfaceevent-logerror-only** コマンドは、**interfaceevent-logerroronly** コマンドに置き換えられました。詳細については、**interfaceevent-logerroronly** コマンドを参照してください。

イベント ログをアプリケーション インターフェイスのエラー イベントのみに制限するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationinterfaceevent-logerror-only** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication インターフェイス イベント ログ エラーのみ
nocallapplication インターフェイス イベント ログ エラーのみ

構文の説明 このコマンドには引数もキーワード也没有せん。

コマンド デフォルト すべてのイベントが記録されます。

コマンド モード グローバル 構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
	12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション設定モニターモードで interfaceevent-logerroronly コマンドに置き換えられました。
	12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン このコマンドは、ログに記録されるイベントの重大度レベルを制限しますが、ログ記録を有効にするものではありません。このコマンドは、すべてのアプリケーション インターフェイスのイベント ログを有効にする **callapplicationinterfaceevent-log** コマンドと一緒に使用する必要があります。

例 Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application interface event-log error-only
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
interface event-log error only
```

次の例では、エラー イベントのみのイベント ログを有効にします。

```
call application interface event-log error-only
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationinterfaceevent-log	音声アプリケーションで使用する外部インターフェースのイベント ログを有効にします。
呼び出しアプリケーションインターフェースイベントログ最大バッファサイズ	各アプリケーションインターフェースのイベント ログ バッファの最大サイズを設定します。
呼び出しアプリケーションインターフェース最大サーバレコード	保存されるアプリケーション インターフェイス レコードの最大数を設定します。
インターフェースイベントログエラーのみ	イベント ログをアプリケーションインターフェースのエラー イベントのみに制限します。
showcallapplicationinterface	アプリケーションインターフェースのイベント ログと統計を表示します。

call application interface event-log max-buffer-size



(注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニタ モードで、**callapplicationinterfaceevent-logmax-buffer-size** コマンドは **interfaceevent-logmax-buffer-size** コマンドに置き換えられました。詳細については、**interfaceevent-logmax-buffer-size** コマンドを参照してください。

各アプリケーションインターフェイスのイベントログバッファの最大サイズを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationinterfaceevent-logmax-buffer-size** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication インターフェイス イベント ログ 最大 バッファ サイズ キロバイト
no callapplication インターフェイス イベント ログ 最大 バッファ サイズ

構文の説明

キロバイト	最大バッファ サイズ (キロバイト)。値の範囲は 1 ～ 10 です。デフォルトは 4 です。
-------	---

コマンド デフォルト

4 キロバイト

コマンド モード

グローバル 構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニタ モードでは interfaceevent-logmax-buffer-size コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

イベント ログ バッファがこのコマンドで設定された制限に達すると、ゲートウェイは同じサイズの 2 番目のバッファを割り当てます。 **showcallapplicationinterface** コマンドを使用すると、両方のバッファの内容が表示されます。最初のイベントログバッファがいっぱいになると、**callapplicationinterfaceevent-logdumpftp** コマンドが使用されている場合、ゲートウェイはその内容を自動的に外部の FTP ロケーションに追加します。

イベント ログには最大 2 つのバッファが割り当てられます。両方のバッファがいっぱいになった場合、最初のバッファは削除され、別のバッファが新しいイベント用に割り当てられます (バッファがラップアラウンドします)。 **callapplicationinterfaceevent-logdumpftp** コマンドが

設定されており、最初のバッファがダンプされる前に2番目のバッファがいっぱいになると、イベントメッセージはドロップされ、バッファに記録されません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application interface event-log max-buffer-size
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
interface event-log max-buffer-size
```

次の例では、最大バッファサイズを 8 キロバイトに設定しています:

```
call application interface event-log max-buffer-size 8
```

関連コマンド

コマンド	説明
呼び出しアプリケーションインターフェースダンプイベントログ	アプリケーションインターフェイスのイベントログバッファを外部ファイルにフラッシュします。
呼び出しアプリケーションインターフェースイベントログダンプFTP	ゲートウェイがインターフェイス イベント ログ バッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。
呼び出しアプリケーションインターフェース最大サーバレコード	保存されるアプリケーション インターフェイス レコードの最大数を設定します。
インターフェースイベントログ最大バッファサイズ	各アプリケーション インターフェイスのイベントログ バッファの最大サイズを設定します。
表示呼び出しアプリケーションインターフェース	アプリケーション インターフェイスのイベント ログと統計を表示します。

call application interface max-server-records



(注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニタ モードでの **callapplicationinterfacemax-server-records** コマンドは**interfacemax-server-records** コマンドに置き換えられました。詳細については、**interfacemax-server-records** コマンドを参照してください。

保存されるアプリケーション インターフェイス レコードの最大数を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationinterfacemax-server-records** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication インターフェイス最大サーバレコード数 *number*
nocallapplication インターフェイス最大サーバレコード数

構文の説明	<i>number</i> 保存するレコードの最大数。値の範囲は 1 ～ 100 です。デフォルトは 10 です。
-------	---

コマンド デフォルト 10

コマンド モード
 グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
	12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニタ モードでは interfacemax-server-records コマンドに置き換えられました。
	12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン 最近アクセスしたサーバからの指定された数のレコードのみが保持されます。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application interface max-server-records
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
interface max-server-records
```

次の例では、保存されるレコードの最大数を 50 に設定します。

```
call application interface max-server-records 50
```

関連コマンド

コマンド	説明
呼び出しアプリケーションインターフェースイベントログ	音声アプリケーションで使用する外部インターフェースのイベント ログを有効にします。
呼び出しアプリケーションインターフェースイベントログ最大バッファサイズ	各アプリケーション インターフェイスのイベント ログ バッファの最大サイズを設定します。
インターフェース最大サーバレコード数	保存されるアプリケーション インターフェイス レコードの最大数を設定します。
showcallapplicationinterface	アプリケーション インターフェイスのイベント ログと統計を表示します。

call application interface stats



(注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニタ モードで **callapplicationinterfacestats** コマンドは **interfacestats** コマンドに置き換えられました。詳細については、**interfacestats** コマンドを参照してください。

アプリケーションインターフェイスの統計情報収集を有効にするには、グローバル コンフィギュレーションモードで **callapplicationinterfacestats** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplicationインターフェイス統計
nocallapplicationインターフェイス統計

構文の説明	このコマンドには引数もキーワード也没有しません。	
コマンド デフォルト	統計収集は無効です。	
コマンド モード	グローバル構成 (config)	
コマンド履歴	リリー ス	変更
	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
	12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モニタ モードでは interfacestats コマンドに置き換えられました。
	12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しいCLIへの自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン このコマンドによって有効になったインターフェース統計情報を表示するには、**showcallapplicationinterface** コマンドを使用します。 インターフェイス カウンタをゼロにリセットするには、**clearcallapplicationinterface** コマンドを使用します。

例 Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application interface stats

Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
interface stats
```

次の例では、アプリケーション インターフェイスの統計収集を有効にします。

```
call application interface stats
```

関連コマンド

コマンド	説明
呼び出しアプリケーションインターフェースイベントログ	音声アプリケーションで使用する外部インターフェースのイベント ログを有効にします。
clearcallapplicationinterface	アプリケーションインターフェースの統計またはイベント ログをクリアします。
インターフェース統計	アプリケーションインターフェースの統計収集を有効にします。
showcallapplicationinterface	アプリケーションインターフェースのイベント ログと統計を表示します。
統計	音声アプリケーションの統計収集を有効にします。

呼び出しアプリケーションセッションの開始（グローバル）



（注） Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーション設定モードで **callapplicationsessionstart**（グローバル） コマンドは **sessionstart** コマンドに置き換えられました。詳細については、**sessionstart** コマンドを参照してください。

Tcl IVR 2.0 アプリケーションの新しいインスタンス (セッション) を開始するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **callapplicationsessionstart** コマンドを使用します。セッションを停止して設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication セッション開始 インスタンス名 アプリケーション名
nocallapplication セッション開始 インスタンス名

構文の説明

インスタンス名	このアプリケーションインスタンスを一意に識別する英数字のラベル。
アプリケーション名	Tcl アプリケーションの名前。これは、 callapplicationvoice コマンドで割り当てられたアプリケーションの名前です。

コマンド デフォルト

このコマンドにデフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	アプリケーション構成モードでは、 callapplicationsessionstart (グローバル構成) コマンドが sessionstart コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Tcl IVR 2.0 アプリケーションの新しいセッションまたはインスタンスを開始します。Cisco IOS ソフトウェアはアクティブなコール レッグがないと VoiceXML アプリケーションを開始できないため、VoiceXML アプリケーションのセッションを開始できません。

アプリケーション インスタンスを開始できるのは、**callapplicationvoice** コマンドを使用して Tcl アプリケーションがゲートウェイにロードされた後のみです。

このコマンドを使用すると、ゲートウェイが再起動するとセッションが再起動します。

nocallapplicationsessionstart コマンドは、Tcl セッションを停止し、ゲートウェイから設定を削除します。**callapplicationsessionstop** コマンドを使用すると、構成を削除せずにアプリケーションセッションを停止できます。

VoiceXML セッションは Cisco IOS コマンドでは開始できないため、**nocallapplicationsessionstart** コマンドで VoiceXML セッションを停止することはできません。

アプリケーションセッションの実行が停止した場合、ゲートウェイが再起動しない限り、アプリケーションセッションは再開されません。Tcl スクリプトは、たとえば「call close」コマンドを実行して意図的に実行を停止したり、スクリプトエラーのために失敗したりする場合があります。

異なるインスタンス名を使用して、同じアプリケーションの複数のインスタンスを起動できます。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application session start
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
        session start
```

次の例では、demo という名前のアプリケーションに対して my_instance という名前のセッションを開始します。

```
call application session start my_instance demo
```

次の例では、demo という名前のアプリケーションの別のセッションを開始します。

```
call application session start my_instance2 demo
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationsessionstart (特権 EXEC)	特権 EXEC モードから Tcl アプリケーションの新しいインスタンス (セッション) を開始します。
callapplicationsessionstop	実行中の音声アプリケーションセッションを停止します。
デバッグVoIPIVR	VoIP IVR インタラクションのデバッグメッセージを表示します。
セッション開始	Tcl IVR 2.0 アプリケーションの新しいインスタンス (セッション) を開始します。
showcallapplicationservicesregistry	登録されているすべてのサービスの 1 行の概要を表示します。

コマンド	説明
表示通話アプリケーションセッション	音声アプリケーションセッションの概要または詳細情報を表示します。

call application session start (特権 EXEC)

Tcl IVR 2.0 アプリケーションの新しいインスタンス (セッション) を開始するには、特権 EXEC モードで **callapplicationsessionstart** コマンドを使用します。

callapplication セッション開始 インスタンス名 [アプリケーション名]

構文の説明	インスタンス名	このアプリケーションインスタンスを一意に識別する英数字のラベル。
	アプリケーション名	(オプション) Tcl アプリケーションの名前。これは、 callapplicationvoice コマンドで割り当てられたアプリケーションの名前です。 (注) アプリケーションインスタンスが以前に開始および停止されている場合、この引数はオプションです。

コマンド デフォルト None

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Tcl IVR 2.0 アプリケーションの新しいセッションまたはインスタンスを開始します。Cisco IOS ソフトウェアはアクティブなコール レッグがないと VoiceXML アプリケーションを開始できないため、VoiceXML アプリケーションのセッションを開始できません。

アプリケーション インスタンスを開始できるのは、**callapplicationvoice** コマンドを使用して Tcl アプリケーションがゲートウェイにロードされた後のみです。

このコマンドを使用すると、ゲートウェイが再起動してもセッションは再開されません。ゲートウェイが再起動した場合にセッションを自動的に再開するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationsessionstart** コマンドを使用します。

アプリケーション セッションの実行を開始したら停止するには、**callapplicationsessionstop** コマンドを使用します。

アプリケーション セッションの実行が停止した場合、ゲートウェイが再起動し、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationsessionstart** コマンドが使用されない限り、アプリケーション セッションは再開されません。Tcl スクリプトは、たとえば「call close」コマンドを実行して意図的に実行を停止したり、スクリプトエラーが原因で失敗したりする場合があります。

異なるインスタンス名を使用して、同じアプリケーションの複数のインスタンスを起動できます。

例

次の例では、my_instance というアプリケーションセッションを再起動します。

```
call application session start my_instance
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationsessionstart (グローバル設定)	グローバル コンフィギュレーション モードで Tcl アプリケーションの新しいインスタンス (セッション) を開始します。
callapplicationsessionstop	実行中の音声アプリケーション セッションを停止します。
showcallapplicationservicesregistry	登録されているすべてのサービスの 1 行の概要を表示します。
表示通話アプリケーションセッション	音声アプリケーション セッションの概要または詳細情報を表示します。

call application session stop

実行中の音声アプリケーションセッションを停止するには、特権 EXEC モードで **callapplicationstop** コマンドを使用します。

callapplicationセッション停止 {**callid**コール ID|**ハンドル**ハンドル|**id**セッション ID|**name**インスタンス名}

構文の説明	callid <i>call-id</i>	Tcl スクリプトが puts コマンドを使用する場合、 debugvoipivrs コマンドからの出力に表示されるコール レッグ ID。
	ハンドル ハンドル	Tcl mod_handle 情報タグからのセッションのハンドル。
	id セッション ID	showcallapplication コマンドで表示できるセッション ID。
	name <i>instance-name</i>	callapplicationstart コマンドで設定されたインスタンス名。

コマンド デフォルト None

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、コール ID、ハンドル、セッション ID、インスタンス名のいずれかの方法で識別される Tcl IVR 2.0 または VoiceXML アプリケーションセッションを停止します。現在実行中のアプリケーションのリストを表示するには、**showcallapplication** コマンドを使用します。

このコマンドで停止された Tcl セッションは、セッション終了イベントを受け取ります。セッションでは、すべてのコールレグを閉じて停止することが求められます。10 秒のタイマーが経過してもセッションが終了しない場合は、セッションは強制的に停止され、制御するすべてのコールレグが切断されます。

このコマンドを使用して VoiceXML セッションを停止すると、ドキュメントの解釈がただちに停止され、コールレグが切断されます。VoiceXML イベントはスローされません。

グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationstart** コマンドを使用して開始するように設定されている Tcl セッションを停止する場合は、セッションを再開する前に、**nocallapplicationstart** コマンドを使用してセッションを削除する必要があります。

停止されたセッションのリストを表示するには、**showcallapplication** コマンドを使用します。グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationstart** コマンドを

使用して開始するように設定されている停止されたセッションのみが表示されます。特権 EXEC モードで **callapplicationsessionstart** コマンドを使用してセッションが開始された場合、そのセッションはシステムによって追跡されず、**showcallapplicationsessions** コマンドの出力に停止として表示されません。

例

次の例では、my_instance というアプリケーションセッションを停止します。

```
call application session stop name my_instance
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationsessionstart (グローバル設定)	グローバル コンフィギュレーション モードから Tcl アプリケーションの新しいインスタンス (セッション) を開始します。
showcallapplicationservicesregistry	登録されているすべてのサービスの 1 行の概要を表示します。
表示通話アプリケーションセッション	音声アプリケーションセッションの概要または詳細情報を表示します。

call application stats



- (注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーション設定モニターモードで **callapplicationstats** コマンドが **stats** コマンドに置き換えられました。詳細については、**stats** コマンドを参照してください。

音声アプリケーションの統計収集を有効にするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationstats** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplicationstats nocallapplication統計

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

統計収集は無効です。

コマンド モード

グローバル設定 (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション設定モニターモードにおいて stats コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しいCLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

アプリケーション統計情報を表示するには、**showcallapplication session-level**、**showcallapplication app-level**、または **showcallapplication gateway-level** コマンドを使用します。履歴内のアプリケーションカウンターをゼロにリセットするには、**clearcallapplicationstats** コマンドを使用します。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application stats
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
stats
```

次の例では、音声アプリケーションの統計収集を有効にします。

call application stats

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationevent-log	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログを有効にします。
呼び出しアプリケーションインターフェース統計	アプリケーション インターフェースの統計収集を有効にします。
clearcallapplicationstats	履歴内のアプリケーションレベルの統計をクリアし、ゲートウェイ レベルの統計からその統計を減算します。
showcallapplicationapp-level	音声アプリケーションのアプリケーション レベルの統計を表示します。
showcallapplicationgateway-level	音声アプリケーション インスタンスのゲートウェイ レベルの統計を表示します。
showcallapplicationsession-level	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログと統計を表示します。
統計	音声アプリケーションの統計収集を有効にします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。